

教 育 課 程 等 の 概 要 (事 前 伺 い)

(学校教育研究科 教科教育実践開発専攻 言語系教育コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目	教職教養科目	教育の歴史と教育理論の展開	1・2	2		○			1	1	1			兼2 昼毎年、夜隔年 オムハス
		子どもの発達と学校の関わり	1・2	2		○			2	3				昼毎年、夜隔年 オムハス
		学校における防災教育と心のケア	1・2	2		○			4					昼毎年、夜隔年 オムハス
		小計 (3 科目)	—	6		—			7	4	1			兼2 —
	教職共通科目	教育課程の変遷と教育の課題	1・2	2		○			1					兼2 昼毎年、夜隔年 オムハス
		教授・学習理論と教育評価	1・2	2		○					1	1		兼1 昼毎年、夜隔年 オムハス
		児童・生徒の理解と教師の関わり	1・2	2		○			2					兼2 昼毎年、夜隔年 オムハス
		小計 (3 科目)	—	6		—			3		1	1		兼5 —
専攻科目	教科教育の理論と方法を学ぶ教科教育科目群	国語科カリキュラム研究	1・2	2		○				1				昼毎年、夜隔年
		国語科授業実践研究	1・2	2		○			1					昼毎年、夜隔年
		国語科カリキュラム研究演習	1・2	2			○			1				昼毎年
		国語科授業実践研究演習	1・2	2			○		1					兼1 昼毎年 オムハス
		英語コミュニケーション授業研究	1・2	2		○					1			※演習 昼毎年、夜隔年
		英語科におけるカリキュラムと評価の研究	1・2	2		○			1					※演習 昼毎年、夜隔年
		英語教育研究法	1・2	2		○								兼1 ※演習 集中 昼毎年、夜毎年
		英語科教育史論	1・2	2		○								兼1 集中 昼隔年、夜隔年
		英語音声指導論演習	1・2	2			○				1			昼毎年
		小学校英語教育論	1・2	2		○								兼2 集中 昼毎年、夜隔年
		小学校英語教育論演習	1・2	2			○							兼1 集中 昼毎年、夜毎年
		小計 (11 科目)	—	22		—			2	1	2	0	0	兼6 —
	教科内容の理解を深める教科専門科目群	国語系教育内容論Ⅰ (古典文学)	1・2	2		○			1					昼毎年、夜隔年
		国語系教育内容論Ⅱ (近現代文学)	1・2	2		○			1					昼毎年、夜隔年
		国語系教育内容論Ⅲ (漢文学)	1・2	2		○			1					昼毎年、夜隔年
		国語系教育内容論Ⅳ (古典語)	1・2	2		○			1					昼毎年、夜隔年
		国語系教育内容論Ⅴ (日本語教育学)	1・2	2		○								兼1 昼毎年、夜毎年
		国語系教育内容論演習Ⅰ (古典文学)	1・2	2			○		1					昼毎年
		国語系教育内容論演習Ⅱ (近現代文学)	1・2	2			○		1					昼毎年
		国語系教育内容論演習Ⅲ (漢文学)	1・2	2			○		1					昼毎年
		国語系教育内容論演習Ⅳ (古典語)	1・2	2			○		1					昼毎年
		国語系教育内容論演習Ⅴ (日本語教育学)	1・2	2			○							兼1 昼毎年、夜毎年
		英語教育内容論Ⅰ (英米文学)	1・2	2		○			1					※演習 昼毎年、夜隔年
		英語教育内容論Ⅱ (英文法と言語理論)	1・2	2		○			1					昼毎年、夜隔年
		英語教育内容論Ⅲ (英語の変異と語法)	1・2	2		○			1					昼毎年、夜隔年
		英語教育内容論Ⅳ (音声学・音韻論)	1・2	2		○								兼1 集中 昼隔年、夜隔年
		英語教育内容論Ⅴ (アガミツラインダ)	1・2	2			○				1			昼隔年、夜隔年
		英語教育内容論演習Ⅰ (英米文学)	1・2	2		○			1					※演習 昼毎年
		英語教育内容論演習Ⅱ (英文法と言語理論)	1・2	2		○			1					※演習 昼毎年
		英語教育内容論演習Ⅲ (英語の変異と語法)	1・2	2			○		1					昼毎年
		小計 (18 科目)	—	36		—			7	0	1	0	0	兼3 —
	教科専門と実践の融合を図るに	日本語の仕組みと言語教育	1・2	2		○			1					昼毎年、夜毎年
		児童文学から教材研究へ	1・2	2		○								兼1 集中 昼隔年、夜隔年
		児童文学から教材研究へ演習	1・2	2			○							兼1 集中 昼隔年、夜隔年
		母語学習と外国語学習	1・2	2		○					1			昼毎年、夜隔年
		言語の理解と表出	1・2	2		○					1			※演習 昼毎年
		小計 (5 科目)	—	10		—			1	0	1	0	0	兼2 —

教 育 課 程 等 の 概 要 (事 前 伺 い)

(学校教育研究科 教科教育実践開発専攻 社会系教育コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専攻科目 専門科目	育方教科法科目を学ぶ群の教科論教と	社会系教科教育論Ⅰ	1・2	2		○			1					昼毎年、夜隔年
		社会系教科教育論Ⅱ	1・2	2		○								昼毎年、夜隔年
		小計(2科目)	—	4		—			1	0	0	0	0	—
	教科内容の理解を深める教科専門科目群	歴史教育内容論Ⅰ(日本古代中世史)	1・2	2		○								兼1 昼毎年、夜隔年
		歴史教育内容論Ⅱ(日本近世史)	1・2	2		○			1					昼毎年、夜隔年
		歴史教育内容論Ⅲ(東洋史)	1・2	2		○								兼1 昼毎年、夜隔年
		歴史教育内容論Ⅳ(西洋史)	1・2	2		○				1				昼毎年、夜隔年
		日本史教材の背景と基礎Ⅰ	1・2	2		○								兼1 ※演習 昼毎年、夜隔年
		日本史教材の背景と基礎Ⅱ	1・2	2		○			1					※演習 昼毎年
		外国史教材の背景と基礎Ⅰ	1・2	2		○								兼1 ※演習 昼毎年、夜隔年
		外国史教材の背景と基礎Ⅱ	1・2	2		○				1				※演習 昼毎年
		教育地理情報研究	1前	2		○			2					※演習 T.T 昼毎年
		地理学の実践展開	1後	2		○			2					※演習 T.T 昼隔年、夜隔年
		地理教材研究法	2前	2		○			2					※演習 T.T 昼毎年、夜毎年
		公民教育内容論Ⅰ(法律学)	1・2	2		○								兼1 昼隔年、夜隔年
		公民教育内容論Ⅱ(政治学)	1・2	2		○			1					昼毎年、夜隔年
		公民教育内容論Ⅲ(経済学)	1・2	2		○			1					昼毎年、夜隔年
		公民教育内容論Ⅳ(社会学)	1・2	2		○								兼1 昼隔年、夜隔年
		公民教育内容論Ⅴ(哲学)	1・2	2		○			1					昼毎年、夜隔年
		公民教育内容論Ⅵ(倫理学)	1・2	2		○								兼1 昼隔年、夜隔年
		公民教材の背景と基礎(法律学)Ⅰ	1・2	2		○								兼1 ※演習 昼隔年、夜隔年
		公民教材の背景と基礎(経済学)Ⅱ	1・2	2		○			1					※演習 昼毎年
		公民教材の背景と基礎(社会学)Ⅲ	1・2	2		○								兼1 ※演習 昼隔年、夜隔年
		公民教材の背景と基礎(哲学)Ⅳ	1・2	2		○			1					※演習 昼毎年
		公民教材の背景と基礎(倫理学)Ⅴ	1・2	2		○								兼1 ※演習 昼隔年、夜隔年
		小計(22科目)	—	44		—			6	1	0	0	0	兼10 —
	図論育教 るとの科 科実架専 目践橋門 群のにと 融り教科 合を理教	社会系教科教育授業研究Ⅰ	1・2	2			○		1					※ハラス 昼毎年、夜隔年
		社会系教科教育授業研究Ⅱ	1・2	2			○		7	1				※ハラス 昼毎年、夜隔年
		小計(2科目)	—	4		—			7	1	0	0	0	—

教 育 課 程 等 の 概 要 (事 前 伺 い)

(学校教育研究科 教科教育実践開発専攻 理数系教育コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専攻科目 専門科目	育教科目群 教科教育の理論と方法を学ぶ教科教育	算数・数学教育基礎論	1・2	2		○			1					昼毎年、夜毎年
		算数・数学教育教授論	1・2	2		○					1			昼毎年、夜隔年
		算数・数学教育教材論	1・2	2		○			1		1			ムニバス 昼毎年、夜隔年
		理科の教育と授業	1・2	2		○			2	1				ムニバス 昼隔年、夜隔年
		理科教材の開発と実践	1・2	2			○			3				ムニバス 昼隔年、夜隔年
		中等理科授業実践演習	1・2	2			○		2	2				T.T 昼毎年
		小計(6科目)	—	12		—			5	5	1	0	0	—
	教科内容の理解を深める教科専門科目群	数学教材の背景と基礎	1・2	2		○			2	1	1			※演習 オムニバス 昼毎年、夜隔年
		数学教材の発展と応用	1・2	2		○			2	1	1			※演習 オムニバス 昼毎年、夜隔年
		数と式・代数領域の教育内容論	1・2	2		○					1			昼隔年、夜隔年
		図形・幾何領域の教育内容論	1・2	2		○			2					昼毎年、夜隔年
		数量関係・解析領域の教育内容論	1・2	2		○				1				昼隔年、夜隔年
		理科教育内容論Ⅰ(基礎物理学)	1・2	2		○			1	1				ムニバス 昼隔年、夜隔年
		理科教育内容論Ⅱ(現代物理学)	1・2	2		○			1	2				ムニバス 昼隔年、夜隔年
		理科教育内容論Ⅲ(環境化学)	1・2	2		○			1	1				ムニバス 昼毎年、夜隔年
		理科教育内容論Ⅳ(機能物質化学)	1・2	2		○			1					昼毎年、夜隔年
		理科教育内容論Ⅴ(基礎生物学)	1・2	2		○			1	1				ムニバス 昼隔年、夜隔年
		理科教育内容論Ⅵ(現代生命科学)	1・2	2		○			1	1				ムニバス 昼隔年、夜隔年
		理科教育内容論Ⅶ(岩石鉱物学)	1・2	2		○			1					昼毎年、夜隔年
		理科教育内容論Ⅷ(地質科学)	1・2	2		○			1	1				ムニバス 昼毎年、夜隔年
		物理学特別実験	1・2	1				○	1	2				ムニバス 昼毎年
		化学特別実験	1・2	1				○	2	1				ムニバス 昼毎年
		生物科学特別実験	1・2	1				○	1	1				ムニバス 昼毎年
		地球科学特別実験	1・2	1				○	2	1				ムニバス 昼毎年
		地質調査法	1・2	1				○	1	1				T.T、集中 昼毎年
		小計(18科目)	—	31		—			8	6	1	0	0	—
	実践科の専門と教科教育の架橋により理論と	数学的リテラシーと算数・数学的活動	1・2	2		○			2					ムニバス 昼毎年、夜隔年
		算数・数学科教材研究と授業実践演習	1・2	2		○			3	1	2			※演習 オムニバス 昼毎年、夜隔年
		初等・中等理科実験演習	1・2通	4			○		1	3				T.T 昼毎年
		理科実験実地演習Ⅰ	1・2	2				○	3	2				T.T 昼毎年、夜隔年
		理科実験実地演習Ⅱ	1・2	2				○	3	2				T.T 昼毎年
		小計(5科目)	—	12		—			7	5	2	0	0	—

教 育 課 程 等 の 概 要 (事 前 伺 い)

(学校教育研究科 教科教育実践開発専攻 芸術系教育コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専攻科目	教科教育の理論と方法を学ぶ教	音楽科教材の開発と実践論	1・2	2		○				1				兼1 オムニバス 昼隔年、夜隔年
		音楽科カリキュラム論	1・2	2		○				1				※演習 昼隔年、夜隔年
		美術教育研究	1・2	2		○			1					昼隔年、夜隔年
		美術教育カリキュラム論	1・2	2		○			1					※演習 昼隔年、夜隔年
		美術教育造形心理論	1・2	2		○			1					昼隔年、夜隔年
		美術教育情報教材研究	1・2	2		○			1					※演習 昼毎年、夜隔年
		小計(6科目)	—	12		—			2	1	0	0	0	兼1 —
	教科内容の理解を深める教科専門科目群	音楽科教育内容開発論Ⅰ(声楽)	1・2	2		○				1				※演習 昼毎年、夜隔年
		音楽科教育内容開発論Ⅱ(鍵盤楽器)	1・2	2		○			2					兼1 ※演習 T.T 昼毎年、夜隔年
		音楽科教育内容開発論Ⅲ(管・弦楽器)	1・2	2		○				1				兼1 ※演習 T.T 昼毎年、夜隔年
		音楽科教育内容開発論Ⅳ(創作表現)	1・2	2		○			1					※演習 昼毎年、夜隔年
		音楽科教育内容開発論Ⅴ(日本伝統音楽)	1・2	2		○								兼1 ※演習 昼毎年
		音楽科教育内容開発論Ⅵ(ソルフェージュ)	1・2	2		○			1					※演習 昼毎年、夜隔年
		音楽科教育内容開発論Ⅶ(音楽文化史)	1・2	2		○								※演習 昼毎年、夜隔年
		音楽科教育内容開発論Ⅷ(音文化論)	1・2	2		○								※演習 昼毎年、夜毎年
		音楽科教育内容開発論Ⅸ(アジア民族音楽)	1・2	2		○								兼2 ※演習 集中 昼毎年、夜毎年
		音楽科教育内容開発論Ⅹ(指揮法)	1・2	2		○								兼1 ※演習 昼毎年、夜毎年
		音楽科授業応用実践論Ⅰ(声楽)	1・2	2		○				1				※演習 昼毎年
		音楽科授業応用実践論Ⅱ(鍵盤楽器)	1・2	2		○			2					兼1 ※演習 T.T 昼毎年
		音楽科授業応用実践論Ⅲ(管・弦楽器)	1・2	2		○				1				兼1 ※演習 T.T 昼毎年
		音楽科授業応用実践論Ⅳ(創作表現)	1・2	2		○			1					※演習 昼毎年
		音楽科授業応用実践論Ⅴ(日本伝統音楽)	1・2	2		○								兼1 ※演習 昼毎年
		美術教育基礎論Ⅰ(絵画)	1・2	2		○			1	1				※演習 オムニバス 昼隔年、夜隔年
		美術教育基礎論Ⅱ(彫塑)	1・2	2		○				1				兼1 ※演習 オムニバス 昼隔年、夜隔年
		美術教育基礎論Ⅲ(構成・デザイン)	1・2	2		○						1		※演習 昼隔年、夜隔年
		美術教育基礎論Ⅳ(工芸)	1・2	2		○				1				※演習 昼隔年、夜隔年
		美術教育基礎論Ⅴ(美術史学・芸術学)	1・2	2		○			1					昼隔年、夜隔年
		美術教育探究実践研究Ⅰ(絵画)	1・2	2				○	1	1				オムニバス 昼毎年、夜隔年
		美術教育探究実践研究Ⅱ(彫塑)	1・2	2				○		1				兼1 T.T 昼毎年、夜隔年
		美術教育探究実践研究Ⅲ(構成・デザイン)	1・2	2				○				1		昼毎年、夜隔年
		美術教育探究実践研究Ⅳ(工芸)	1・2	2				○		1				兼1 オムニバス 昼毎年、夜隔年
		美術教育探究実践研究Ⅴ(鑑賞批評)	1・2	2		○			1					※演習 昼隔年、夜隔年
		美術教育探究実践研究Ⅵ(版画)	1・2	2				○						兼1 一部集中 昼毎年
		小計(26科目)	—	52		—			5	5	0	1	0	兼12 —
	目録の教科専門と実践の融合を図る科目と	音楽教育授業研究	1・2	2		○			3	3				※演習 オムニバス 昼毎年、夜隔年
		美術教育授業研究	1・2	2		○			2	3		1		※演習 T.T 昼隔年、夜隔年
		総合芸術表現研究	1・2	2		○			2					※演習 T.T 昼毎年、夜隔年
		小計(3科目)	—	6		—			6	6	0	1	0	—

教育課程等の概要（事前伺い）																
（学校教育研究科 教科教育実践開発専攻 生活・健康・情報系教育コース）																
科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目	教科教育の理論と方法を学ぶ教科教育科目群	保健体育科教育論	1・2	2			○						1		昼毎年、夜隔年	
		保健体育科授業研究	1・2	2			○			1					昼隔年、夜隔年	
		家庭科授業研究	1・2	2			○				1				※演習 昼毎年、夜隔年	
		技術教育基底論	1・2	2			○			1					※演習 昼毎年、夜隔年	
		技術教育カリキュラム論	1・2	2			○			1				兼1	※演習 一部集中 T.T 昼毎年、夜隔年	
		技術教育授業研究	1・2	2			○			1					※演習 昼毎年、夜隔年	
		小計（6科目）	—	12			—			2	1		1		兼1	—
	教科内容の理解を深める教科専門科目群	からだと心の健康	1・2	2			○									昼隔年、夜隔年
		健康教育論	1・2	2			○							兼1	※演習 昼隔年、夜隔年	
		学校保健研究	1・2	2			○							兼1	※演習 昼隔年、夜隔年	
		衛生学・公衆衛生学研究	1・2	2			○							兼1	昼隔年、夜隔年	
		子どものリスクと安全教育	1・2	2			○							兼1	※演習 昼隔年、夜隔年	
		子どものメンタルヘルス	1・2	2			○							兼1	※演習 昼隔年、夜隔年	
		身体運動科学	1・2	2			○			1	1				※演習 オムハス 昼隔年、夜隔年	
		スポーツ文化論	1・2	2			○				2				オムハス 昼毎年、夜隔年	
		スポーツ心理学	1・2	2			○								※演習 昼毎年、夜隔年	
		食生活の科学と文化	1・2	2			○			1					※演習 昼隔年、夜隔年	
		食生活科学演習	1・2	2				○		1					昼隔年、夜隔年	
		衣生活の科学と文化	1・2	2			○							兼1	※演習 集中 昼隔年、夜隔年	
		住生活の科学と文化	1・2	2			○							兼1	※演習 集中 昼隔年、夜隔年	
		電気・電子工学とものづくりの技術	1・2	2			○			1					※演習 昼毎年、夜隔年	
		機械工学とものづくりの技術	1・2	2			○							兼1	※演習 集中 昼毎年、夜隔年	
		情報工学とプログラミングの技術	1・2	2			○				1				※演習 昼毎年、夜隔年	
		小計（16科目）	—	32			—			4	4				兼6	—
	複合領域の内容と教育方法を学ぶ科目群	地域スポーツの運営と課題	1・2	2			○				1			兼1	※演習 オムハス 昼隔年、夜隔年	
		ライフスタイルと健康	1・2	2			○			2			1		※演習 オムハス(一部T.T) 昼隔年、夜隔年	
		ライフスタイルと家族関係	1・2	2			○						1		※演習 昼隔年、夜隔年	
		ライフスタイルと環境	1・2	2			○			2				兼1	※演習 オムハス(一部T.T) 昼隔年、夜隔年	
		食育の考え方と進め方	1・2	2			○			2				兼1	※演習 オムハス(一部T.T) 昼隔年、夜隔年	
		教育情報コミュニケーション	1・2	2			○			1					※演習 昼隔年、夜隔年	
		情報活用実践論	1・2	2			○								※演習 昼隔年、夜隔年	
		情報のモラル教育と学校のセキュリティ	1・2	2			○							兼1	※演習 昼隔年、夜隔年	
		教育情報工学	1・2	2			○					1			※演習 昼隔年、夜隔年	
		教育情報ネットワーク活用論	1・2	2			○			1	1				※演習 T.T 昼隔年、夜隔年	
		情報教育論	1・2	2			○								※演習 昼隔年、夜隔年	
		総合学習情報教育論	1・2	2			○			1					※演習 昼隔年、夜隔年	
		情報教育環境開発論	1・2	2			○				1				※演習 昼隔年、夜隔年	
		情報社会と生活	1・2	2			○			2	1				※演習 オムハス 昼隔年、夜隔年	
		教育の情報化とICT活用	1・2	2			○			2	2	1			※演習 オムハス(一部T.T) 昼隔年、夜隔年	
		小計（15科目）	—	30			—			6	3	1	1		兼4	—
	教科専門と教科教育の融合を橋を築く科目群	運動指導の基礎と応用	1・2	2				○		1	1				オムハス 昼毎年、夜隔年	
		保健体育科教材論	1・2	2			○			2	2		1		オムハス 昼毎年、夜隔年	
		家庭科教材論	1・2	2			○				1			兼1	※演習 オムハス 昼隔年、夜隔年	
		計測・制御システム教材研究	1・2	2			○			1					※演習 昼毎年、夜隔年	
		エネルギー変換教材研究	1・2	2			○							兼1	※演習 集中 昼毎年、夜隔年	
		材料加工教材研究	1・2	2			○							兼2	※演習 集中 オムハス 昼毎年、夜隔年	
		小計（6科目）	—	12			—			3	3		1		兼4	—
	課題を探究する能力を養成する研究課題	課題研究	1～2	8						40	19	6	3			
		小計（1科目）	—	8			—			40	19	6	3			—
合計（174科目）			—	8	343			—	48	23	7	2		兼56	—	
学位又は称号		修士（学校教育学）		学位又は学科の分野				教育学・保育学関係								

設置の趣旨・必要性		
I 設置の趣旨・必要性 学校教育研究科は、主として現職教員の学校教育に関する高度な研究・研鑽の機会を確保するため、修士課程として昭和55年4月に開設した。平成20年4月に同研究科に専門職学位課程（教職大学院）を開設し、平成23年度の修士課程の改組を経て、現在、修士課程3専攻、専門職学位課程1専攻の合わせて4専攻で構成されている。 平成25年10月15日の教員の資質能力向上に係る当面の改善方策の実施に向けた協力者会議報告書「大学院段階の教員養成の改革と充実等について」の中で、従来の修士課程において、個別分野の学問的知識・能力が過度に重視される一方、学校現場での実践力・応用力など、教職としての高度の専門性の育成がおろそかになっていること等が指摘されている現状を踏まえ、学校現場の課題解決を図り、学校現場で活躍する中核的な教員を養成することを目的として、修士課程の教育内容・方法開発専攻3コースを、教科教育実践開発専攻5コースに改編し、カリキュラムの見直しを行う。その具体的な内容は以下のとおりである。 ①教科の大括り化を維持しつつ、教育・研究分野が教科名に対応した、対外的にもわかりやすいコースに再編する。 ②第三期中期目標期間中に教職大学院へ移行することを前提としてカリキュラムをスリム化し、学校教育や教員養成と関連性のある授業科目のみを精査して開設する。 ③すべてのコースにおいて、アクティブラーニングを積極的に取り入れた授業科目を開設する。 ④すべてのコースにおいて、教科の専門的知識や理論を、児童生徒に教授する場面において、どのように活用していくのかという教育実践につなげるため、教科教育と教科専門を架橋・融合した授業科目を開設する。 II 教育課程編成の考え方・特色 教科教育実践開発専攻は、現職教員及び新任教員の教科等の実践的指導力を高度化させ、「学び続ける教員」であるために必要とされる強靱な探究力を養成するため、以下のとおり教育課程を編成する。 （1）共通科目 ※共通科目は、前回平成23年度に改革を行ったが、科目設置の趣旨・目的が現在でも通用すること、開設科目について見直し等を行っていることから、現行どおり開設する。 教員として身に付けるべき高度な教養や、教育学、心理学等の教員養成の基礎、基本理念となるものが必要不可欠であるとの考えから、「教職教養科目」と「教職共通科目」の2つ区分を設けて編成する。 教職教養科目は『教員として身に付ける教養的な内容、「教育学」、「心理学」の理念・理論を扱う科目』、教職共通科目は『教員として幅広い共通した高度の専門性を得させるために必要な実践的な理論や方法論の内容を扱う科目』として、各区分3科目、合計6科目を開設し、両区分から1科目（2単位）以上を履修させ、バランスのとれた人材養成を行う。 （2）専攻科目 ①専門科目 教育実践を重視するという立場から、専門科目として以下の3つの科目群を各コース必須の科目群として設定し、授業科目を開設する。 ・教科教育の理論と方法を学ぶ教科教育科目群 ・教科内容の理解を深める教科専門科目群 ・教科専門と教科教育の架橋により理論と実践の融合を図る科目群 ②学校教育実践に関する探究力を養成する課題研究 ・授業科目「課題研究（1～2年、8単位）」を開設する。 ・課題研究は毎週開講し、教育学や教科専門に関する理論研究に偏ることなく、指導教員が学生との議論を通じて課題を設定し、学校現場との連携（附属学校との共同研究や教育委員会や地域の学校を通じての調査研究等）を通して成果を積み上げることで、実践を重視した教科指導や児童生徒に関する喫緊の現代的課題解決・改善等の学校教育実践に関する探究力を養成する。		
卒業要件及び履修方法		授業期間等
【修了要件】 大学院修士課程の修了要件は、大学院に2年以上（長期履修学生にあっては3年以上）在学し、所定の32単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び試験に合格することとする。 【履修方法】 〔共通科目〕 （教職教養科目）2単位以上修得する。 （教職共通科目）2単位以上修得する。 〔専攻科目〕 （専門科目） 〈教科教育の理論と方法を学ぶ教科教育科目群〉 自己が所属するコースで開設する教科教育分野の授業科目のうちから、4単位以上を修得する。 〈教育内容の理解を深める教科専門科目群〉 自己が所属するコースで開設する専門分野の授業科目のうちから、8単位（6単位）以上を修得する。 〈教科専門と教科教育の架橋により理論と実践の融合を図る科目群〉 自己が所属する専攻で開設する総合分野の授業科目のうちから、2単位（4単位）以上を修得する。 （探究力を養成する課題研究） 各自の研究課題に応じ、担当教員の指導のもとに8単位を修得する。 上記の合計単位数「26単位」と修了要件の「32単位」との差の「6単位」は、本専攻で開設する共通科目、修士課程のすべての専攻において開設する専門科目、理数系教員養成特別プログラム対象科目、小学校英語活動プログラム対象科目のうちから修得するものとする。		1学年の学期区分
		2学期
		1学期の授業期間
		15週
		1時限の授業時間
		90分

教育課程等の概要(事前伺い)

(学校教育研究科 教育内容・方法開発専攻)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目	教職 教養科目	教育の歴史と教育理論の展開	1・2	2		○			2	1	1			兼2 オムニバス 夜隔年
		子どもの発達と学校の関わり	1・2	2		○			2	3				オムニバス 夜隔年
		学校における防災教育と心のケア	1・2	2		○			4					兼2 夜隔年
		小計(3科目)	—	0	6	0	—		8	4	1	0	0	兼4
	教職 共通科目	教育課程の変遷と教育の課題	1・2	2		○			3					兼2 オムニバス 夜隔年
		教授・学習理論と教育評価	1・2	2		○					1	1		兼3 オムニバス 夜隔年
		児童・生徒の理解と教師の関わり	1・2	2		○			2					兼3 オムニバス 夜隔年
		小計(3科目)	—	0	6	0	—		5		1	1		兼3
専攻科目	専門科目 認知形成系教育コース(専門分野)	日本古代中世の歴史と文化	1・2	2		○								兼1 夜隔年
		日本古代中世の歴史と文化(演習)	1・2	2			○							兼1
		日本近世の歴史と文化	1・2	2		○			1					夜隔年
		日本近世の歴史と文化(演習)	1・2	2			○		1					
		東洋の歴史と文化	1・2	2		○			1					夜隔年
		東洋の歴史と文化(演習)	1・2	2			○		1					
		西洋の歴史と文化	1・2	2		○				1				夜隔年
		西洋の歴史と文化(演習)	1・2	2			○			1				
		都市・農村景観と空間分析	1	2		○			1					※演習 夜隔年
		地誌と地域研究	1	2		○			1					夜隔年
		教育地理情報研究	1	2		○			2					※演習、チーム・ティーチング
		地域地理学の研究と教育	2	2			○		2					チーム・ティーチング
		現代の政治構造	1・2	2		○			1					夜隔年
		現代の市場構造	1・2	2		○			1					夜隔年
		現代の市場構造(演習)	1・2	2			○		1					
		グローバリゼーションと社会	1・2	2		○								兼1 ※演習 夜隔年
		グローバリゼーションと文化	1・2	2		○								兼1 ※演習、集中 昼夜隔年
		日本の文化システムと教育	1・2	2		○								兼1 集中 昼隔年
		現代民主主義と日本国憲法	1・2	2		○								兼1 夜隔年
		現代民主主義と日本国憲法(演習)	1・2	2			○							兼1
		現代社会の思想	1・2	2		○			1					夜隔年
		現代社会の思想(演習)	1・2	2			○		1					
		思想と倫理	1・2	2		○								兼1 ※演習、集中
		算数・数学教科教材の背景と基礎	1	2		○			2	1	1			オムニバス 夜隔年
		数と式・代数領域の算数・数学教科内容論	1・2	2		○					1			昼夜隔年
		図形・幾何領域の算数・数学教科内容論	1・2	2		○			2					オムニバス 夜隔年
		数量関係・解析領域の算数・数学教科内容論	1・2	2		○								兼1 夜隔年
		算数・数学教科内容論演習	1・2	2			○		2	1	1			オムニバス 夜隔年
		理科学科内容論Ⅰ(基礎物理学)	1・2前	2		○			1	1				オムニバス 昼夜隔年
		理科学科内容論Ⅱ(物理学特論)	1・2	2		○			1	2				昼夜隔年
		理科学科内容論Ⅲ(環境物質化学)	1・2前	2		○			1	1				オムニバス 夜隔年
		理科学科内容論Ⅳ(機能物質化学)	1・2	2		○			1					夜隔年
		理科学科内容論Ⅴ(構造生物学)	1・2前	2		○			2	1				オムニバス 昼夜隔年
		理科学科内容論Ⅵ(機能生物学)	1・2後	2		○			2	1				オムニバス 昼夜隔年
		理科学科内容論Ⅶ(岩石鉱物学)	1・2前	2		○			1					夜隔年
		理科学科内容論Ⅷ(地質科学)	1・2前	2		○			1	1				オムニバス 夜隔年
		物理学特別実験	1・2	2				○	1	2				オムニバス
		化学特別実験	1・2	2				○	2	1				オムニバス
		生物科学特別実験	1・2	2				○	2	1				オムニバス
		地球科学特別実験	1・2	2				○	2	1				オムニバス
		地質調査法	1・2	2				○	1	1				チーム・ティーチング
		小計(41科目)	—	0	82	0	—		16	7	1	0	0	兼9

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実験・実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
(専攻科目) (専門科目)	社会系教科教育実践論	1・2		2		○			1					夜隔年
	社会系教科教育カリキュラム編成論Ⅰ(地理的内容)	1・2		2		○								兼1 昼夜隔年
	社会系教科教育カリキュラム編成論Ⅱ(歴史的内容)	1・2		2		○			1					夜隔年
	社会系教科教育カリキュラム編成論Ⅲ(公民的内容)	1・2		2		○								兼1 昼隔年
	社会系教科教育授業研究	1・2		2			○		2					オムニバス
	生活科教育実践論	1・2		2		○								兼1 集中 昼隔年
	算数・数学教育基礎論	1・2		2		○			1					兼1 オムニバス
	算数・数学教育教授論	1・2		2		○					1			オムニバス 夜隔年
	算数・数学教材論	1・2		2		○			1		1			オムニバス 夜隔年
	理科の教育と授業	1・2		2		○			3	1				オムニバス 昼夜隔年
	理科教材の開発と実践	1・2		2					1	2				オムニバス 昼夜隔年
	初等・中等理科実験演習	1・2通		4				○	2	3				オムニバス
	理科実験実地演習	1・2通		4				○	3	2				オムニバス
	小計(13科目)	—	0	30	0	—			10	5	1	0	0	兼4
	多文化社会の歴史と地理	1・2		2		○			2					オムニバス 昼夜隔年
	シティズンシップと教育	1・2		2		○			1					兼1 オムニバス 昼夜隔年
	数学的リテラシーと算数・数学的活動	1・2		2		○			2					オムニバス 夜隔年
	科学的リテラシーの育成	1・2		2		○			3					オムニバス 昼夜隔年
	人間と環境	1・2		2		○			1	1				オムニバス 昼夜隔年
	地域学習の方法と教材開発	1・2		2		○			2	1				オムニバス 昼隔年
	小計(6科目)	—	0	12	0	—			11	2	0	0	0	兼1
	総論形成系教育コース(総合分野)													

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実験・実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
(専攻科目) (専門科目) 文化表現系教育コース(専門分野)	言語能力運用論	1・2後	2			○			1					※演習
	国語表現論	1・2前	2			○			1					夜隔年
	国語表現論演習	1・2後	2				○		1					
	日本語教育論	1・2前	2			○								兼1 夜隔年
	日本語教育論演習	1・2後	2				○							兼1 夜隔年
	日本古典文学研究	1・2前	2			○			1					夜隔年
	日本古典文学研究演習	1・2後	2				○		1					
	日本近現代文学研究	1・2前	2			○			1					夜隔年
	日本近現代文学研究演習	1・2後	2				○		1					
	中国古典文学研究	1・2前	2			○			1					夜隔年
	漢字・漢文学研究演習	1・2後	2				○		1					
	児童文学研究	1・2前	2			○								兼1 集中 昼隔年
	児童文学研究演習	1・2後	2				○							兼1 集中 昼隔年
	英語音声学・音韻論	1・2前	2			○								兼1 集中 昼隔年
	英語学研究	1・2後	2			○			1					※演習
	通時的英語学研究	1・2前	2			○			1					夜隔年
	通時的英語学研究演習	1・2後	2				○		1					
	英語アカデミックライティング	1・2前	2				○			1				昼夜隔年
	アメリカ文化理解	1・2前	2			○			1					※演習
	英米文化研究	1・2後	2			○			1					※演習 夜隔年
	英米文学研究	1・2前	2			○			1					※演習 夜隔年
	イギリスの文学と社会	1・2後	2			○			1					※演習
	サウンドスケープ特論	1・2前	2			○			1					夜隔年
	音楽芸術文化研究	1・2前	2			○			1					
	日本音楽研究	1・2後	2			○			1					
	音楽文化史研究	1・2後	2			○			1					昼夜隔年
	日本音楽史	1・2前	2			○			1					夜隔年
	創作表現の基礎	1・2前	2			○			1					夜隔年
	創作表現の応用	1・2後	2				○		1					
	実技教育の基礎論	1・2前	2			○			1					※演習 夜隔年
	実技教育の応用	1・2後	2				○		1					
	指揮技法の基礎と応用	1・2前	2				○							兼1 夜隔年
	鍵盤楽器表現の基礎	1・2前	2				○		2					兼1 ※講義、チーム・ティーチング 夜隔年
	鍵盤楽器表現の応用	1・2後	2				○		2					兼1 ※講義、チーム・ティーチング 夜隔年
	管・弦楽器表現の基礎	1・2前	2				○		1					兼1 ※講義、チーム・ティーチング 夜隔年
	管・弦楽器表現の応用	1・2後	2				○		1					兼1 ※講義、チーム・ティーチング
	器楽表現教育論	1・2前	2			○			1					※演習
	邦楽器表現の基礎	1・2前	2				○							兼1 ※講義
	邦楽器表現の応用	1・2後	2				○							兼1 ※講義
	アジア音楽実技演習Ⅰ(雅楽)	1・2前	2				○							兼1 ※講義、集中 昼隔年
	アジア音楽実技演習Ⅱ(ガムラン)	1・2前	2				○							兼1 集中 昼隔年
	声楽表現の基礎	1・2前	2				○		1					※講義 夜隔年
	声楽表現の応用	1・2後	2				○		1					※講義
	絵画表現論	1・2後	2			○			1	1				※演習、オムニバス 夜隔年
	絵画表現研究	1・2前	2					○	1	1				オムニバス
	版画技法研究	1・2前	2					○						兼1 集中 昼隔年
	彫塑表現論	1・2前	2			○			1					兼1 ※演習、オムニバス 夜隔年
	彫塑表現研究	1・2後	2					○	1					兼1 チーム・ティーチング
	構成・デザイン表現論	1・2前	2			○					1			※演習 夜隔年
	構成・デザイン表現研究	1・2後	2					○			1			
	工芸表現論	1・2後	2			○			1					※演習 夜隔年
	工芸表現研究	1・2前	2					○	1					
	美術史学・芸術学特論	1・2後	2			○			1					
	鑑賞批評論	1・2前	2			○			1					※演習 夜隔年
	小計(54科目)	—	0	108	0	—			15	5	1	1	0	兼16

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実験・実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	
(専攻科目) (専門科目) 文化表現系教育コース(教科教育分野)	国語科カリキュラム研究	1・2前		2		○				1				夜隔年
	国語科カリキュラム研究演習	1・2後		2			○			1				
	国語科授業実践研究	1・2前		2		○			1					夜隔年
	国語科授業実践研究演習	1・2後		2			○		1					兼1
	英語コミュニケーション授業研究	1・2後		2		○					1			※演習 夜隔年
	英語科におけるカリキュラムと評価の研究	1・2後		2		○			1					※演習 夜隔年
	英語教育研究法	1・2前		2		○								兼1 ※演習
	英語教育コミュニケーション論	1・2後		2		○								兼1 夜隔年
	英語科教育史論	1・2前		2		○								兼1 集中 昼隔年
	英語音声技能論演習	1・2後		2			○				1			
	小学校英語教育論	1・2前		2		○								兼2 集中 夜隔年
	小学校英語教育論演習	1・2後		2			○							兼1 集中
	音楽科教育実践研究	1・2前		2		○			1					夜隔年
	音楽科教育実践研究演習	1・2後		2			○		1					昼夜隔年
	音楽科カリキュラム論	1・2前		2		○				1				※演習 夜隔年
	音楽科カリキュラム論演習	1・2後		2		○				1				※演習 昼夜隔年
	美術教育研究	1・2後		2		○								兼1 夜隔年
	美術教育カリキュラム論	1・2前		2		○			1					夜隔年
	美術教育造形心理特論	1・2前		2		○			1					夜隔年
	美術教育情報教材特論	1・2後		2		○			1					
	小計(20科目)	—	0	40	0	—			5	2	2	0	0	兼0
	文化表現系教育コース(総合分野)													
	日本語の仕組みと言語教育	1・2前		2		○			1					夜隔年
	英語の仕組みと言語教育	1・2前		2		○			1					夜隔年
	母語学習と外国語学習	1・2後		2		○					1			夜隔年
	言語の理解と表出	1・2前		2		○					1			※演習
	人間生活と芸術	1・2前		2		○			2					オムニバス 昼夜隔年
	総合芸術表現演習	1・2後		2			○		2					※講義、チーム・ティーチング 夜隔年
	小計(6科目)	—	0	12	0	—			6	0	1	0	0	

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実験・実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	
(専攻科目) (専門科目) 行動開発系教育コース(専門分野)	からだと心の健康	1・2前	2			○								昼夜隔年
	健康教育論	1・2前	2				○							兼1 ※講義 昼夜隔年
	身体運動科学	1・2前	2			○			1	1				オムニバス 昼夜隔年
	身体運動科学演習	1・2後	2				○		1	1				集中、オムニバス 夜隔年
	スポーツ文化論	1・2前	2			○				2				オムニバス 昼夜隔年
	スポーツ心理学	1・2前	2			○						1		※演習 夜隔年
	電気・電子工学特論	1・2前	2			○			1					※演習 夜隔年
	機械工学特論	1・2前	2			○								兼1 ※演習、集中 夜隔年
	計測・制御システム教材研究	1・2後	2			○			1					※演習 夜隔年
	エネルギー変換教材研究	1・2前	2			○								兼1 ※演習、集中 夜隔年
	材料加工教材研究	1・2前	2			○								兼2 ※演習、集中 夜隔年
	食生活の科学と文化	1・2前	2			○			1					昼夜隔年
	食生活科学実験演習	1・2後	2					○	1					昼夜隔年
	衣生活の科学と文化	1・2前	2			○								兼1 昼夜隔年
	衣生活科学演習	1・2前	2				○							兼1 昼夜隔年
	食品科学の考え方と生活への応用	1・2後	2			○			1					※演習 昼夜隔年
	家族と文化・社会	1・2前	2			○						1		※演習 昼夜隔年
	ジェンダーの国際比較研究	1・2後	2			○						1		※演習 昼夜隔年
	生活環境と応用材料学	1・2後	2			○								兼1 昼夜隔年
	住生活の科学と文化	1・2	2			○								兼1 ※演習、集中 昼夜隔年
	教育情報コミュニケーション特論	1・2前	2			○			1					※演習 昼夜隔年
	情報活用実践論	1・2後	2			○			1					※演習 昼夜隔年
	情報のモラル教育と学校のセキュリティ	1・2	2			○								兼1 ※演習、集中 昼夜隔年
	教育情報工学特論	1・2後	2			○					1			※演習 昼夜隔年
	教育情報ネットワーク活用特論	1・2後	2			○			1	1				※演習、オムニバス 昼夜隔年
	情報教育法特論	1・2前	2			○			1					※演習 昼夜隔年
	総合学習情報教育特論	1・2後	2			○			1					※演習 昼夜隔年
	情報教育環境開発特論	1・2前	2			○				1				※演習 昼夜隔年
	小計(28科目)	—	0	56	0		—		7	4	1	2	0	兼10
	保健体育科教育論	1前	2			○						1		夜隔年
	保健体育科教材論	1後	2			○			1					夜隔年
	保健体育授業研究	1前	2			○			1					昼夜隔年
	技術教育基礎論	1・2前	2			○			1					※演習 夜隔年
	技術教育カリキュラム論	1・2後	2			○			1					兼1 ※演習、チーム・ティーチング 夜隔年
	技術教育授業研究	1・2前	2			○			1	1				※演習、オムニバス 夜隔年
	家庭科教材論	1・2後	2			○				1				兼1 ※演習、オムニバス 昼夜隔年
	家庭科授業研究	1・2前	2			○				1				兼1 ※演習 夜隔年
	小計(8科目)	—	0	16	0		—		2	2	0	1	0	兼3
	スポーツと人間性の回復	1・2後	2			○				1		1		※演習、オムニバス 昼夜隔年
	地域スポーツの運営と課題	1・2後	2			○				1				兼1 ※演習、オムニバス 昼夜隔年
	情報化社会と生活	1・2	2			○			3					※演習、オムニバス 夜隔年
	教育の情報化とICT活用	1・2	2			○			2	3	1			※演習、オムニバス 昼夜隔年
	食育の考え方と進め方	1・2後	2			○			2					兼1 ※演習、オムニバス 昼夜隔年
	生活・自然環境のとらえ方と環境教育	1・2前	2			○			1					兼2 ※演習、オムニバス 昼夜隔年
	生活スタイルと健康科学	1・2後	2			○			2			1		※演習、オムニバス 昼夜隔年
	小計(7科目)	—	0	14	0		—		7	5	1	2	0	兼4
	課題研究	1～2	8	0	0				47	19	6	4	0	
	小計(1科目)	—	8	0	0				47	19	6	4	0	
	合計(190科目)	—	8	382	0		—		54	23	7	4	0	兼67
学位又は称号		修士(学校教育学)		学位又は学科の分野		教育学・保育学関係								

I 設置の趣旨

本学校教育研究科は、主として現職教員の学校教育に関する高度な研究・研鑽の機会を確保するため、修士課程として昭和55年4月に開設した。平成20年4月に同研究科に専門職学位課程（教職大学院）を開設し、現在、修士課程と専門職学位課程を合わせて4専攻で構成されている。今回、現行の修士課程3専攻11コースを3専攻9コースに改編することとし、その目的は次のとおりである。

近年、社会構造の急激な変化や価値観の多様化を反映して、子どもたちを取りまく生活環境は大きく変化し教育課題も多様化している。また、平成20年1月17日の中央教育審議会答申の「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」では、現在は新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域での活動の基盤として、飛躍的に重要性が増している知識基盤社会となってきたと指摘されている。

このような状況を踏まえ、学校教育現場においては、学力の重要な3つの要素、①基礎的・基本的な知識・技能の習得、②知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等、③学習意欲を育成することが強く求められており、これらに対応できる教員の養成・研修は急務であると考えられる。

本学の修士課程においては、これまで学校教育に関する実践的な教育研究の推進により、高い専門性と実践力を発揮することができる教育指導者の育成をめざしてきた。しかしながら、上述のとおり教育課題の多様化や各教科間の連携の重要性が増してきているため、それらをマクロ的な視点で捉え、総合的に教育研究することが学校現場を始めとする各方面から求められており、それに応えるため組織の再編とカリキュラムの改革を行うものである。

現行の修士課程3専攻（学校教育学専攻、特別支援教育学専攻、教科・領域教育学専攻）を廃止し、人間発達教育専攻、特別支援教育専攻及び教育内容・方法開発専攻を設置する。

教育内容・方法開発専攻は、認識形成系教育コース、文化表現系教育コース及び行動開発系教育コースの3コースで構成し、学校教育における教育内容のあり方について教育研究を行う。本来、教育内容とは社会・言語・科学・技術・芸術・スポーツなど人間が長い年月をかけて培ってきた多様な文化や生活の様式を児童・生徒の発達段階に即して「学びの対象」として編成したものである。したがって、教育内容は文化や生活の様式などの客体的内容が、児童・生徒の内面的な条件との統合によって、認識・表現・行動の各能力として主体化されるものである。本専攻では、このような児童・生徒の陶冶性に基づく教育内容・方法を開発するための教育研究を行うこととしている。

II 教育課程の編成の考え方・特色

修士課程での教育研究活動を可視化し、学生が教育研究の内容の理解をより深められるよう各専攻・コースにおける主な教育研究課題を明示することとする。また、多様化する教育課題・知識基盤社会への対応を図り、より大きな視点で教育研究ができるよう、教育課程の編成に次のような特色をもたせることとする。

【共通科目】

（１）本学修士課程の教育課程は共通科目と専攻科目に区分され、共通科目は、「教員としての幅広い共通した高度の専門性を得させるため、教職系の科目として開設する。」としており、全ての学生が2科目4単位以上を履修することとしている。

（２）この共通科目は、現在、①人間の成長・発展に関するもの、②教育の組織・運営に関するもの、③教授・学習システムに関するもの及び④児童・生徒指導に関するものの4区分に従って開設しているが、学生の履修の状況を見ると上記の①、②の授業科目の履修者に比べ、③、④の授業科目の履修者が約2倍となっており、大きな偏りがみられる。これらのことからみると教育の基本理念的なものより、より実践的なものを履修する傾向がうかがえる。

（３）新しいカリキュラムにおいては、教員養成の大学院の共通科目の内容として、先ず、教員として身に付けるべき高度な教養や、教育学、心理学等の教員養成の基礎、基本理念となるものが必要不可欠であるとの考えから、現行の共通科目を「教職教養科目」と「教職共通科目」の2つに区分して編成することにした。

（４）教職教養科目の位置付けは、『教員として身に付ける教養的な内容、「教育学」、「心理学」の理念・理論を扱う科目』とし、また、教職共通科目は『教員として幅広い共通した高度の専門性を得させるために必要な実践的な理論や方法論の内容を扱う科目』として、教職教養科目は2科目、教職共通科目は3科目、合計5科目を開設し、両者から1科目（2単位）以上それぞれ履修させ、バランスのとれた人材養成を行うこととしている。

【専攻科目】

(1) 現行教育課程の専攻科目には、総合科目、専門科目（専門分野、教科教育分野）、課題研究が設定されている。このうち、総合科目については、教員の専門職としての特性を支える専門的教養を培うことを目的とし、専門諸科学の総合的な内容を教科・領域教育学専攻の5コースが主担当となって6科目を開設している。これにより、教科・領域教育学専攻の学生はもとより、学校教育学専攻及び特別支援教育学専攻の学生にとっても、教員としての幅広い専門性を修得することが可能となっている。

しかしながら、多様化する現代的な教育課題や学校現場からのニーズに対応するためには、さらに各専攻・コースが開設する専門科目や課題研究との関連性を明らかにすることなど、教育課程の一層の充実が必要である。

そのため、これまで、教科・領域教育学専攻を中心とした専門諸科学の総合的な内容であった総合科目をさらに強化・改善し、各専攻・コースの教育研究内容に密接に関連した授業科目を開設することとした。

(2) 今回の改組により、各専攻・コースが専門科目の中に総合分野として授業科目を開設することで、従前の総合科目を、より専門分野を基盤にした総合的な授業科目として設定することができ、学生にとっても一層、現代的な教育課題につながる学びが可能となる。全専攻・コースで、29科目（従前の総合科目は6科目）を開設することにより、学生が自身のニーズに応じた科目履修ができるようになる。

(3) なお、具体には教育内容・方法開発専攻の社会系教育分野と自然系教育分野で構成する認識形成系教育コースでは、「多文化社会の歴史と地理」や「科学的リテラシーの育成」などの8科目を、言語系教育分野と芸術系教育分野で構成する文化表現系教育コースでは、「母語学習と外国語学習」や「人間生活と芸術」などの8科目を、またスポーツ健康系教育分野と応用生活系教育分野で構成する行動開発系教育コースでは、「スポーツと人間性の回復」や「情報化社会と生活」などの8科目をそれぞれ専門科目の総合分野の授業科目として開設することとした。

【課題研究】

今回の教育課程改革においては、上述のとおり学生の教育研究活動を可視化し、学生がより理解が深められるよう、各専攻・コースにおける主な教育研究課題を明示することとした。また、多様化する教育研究課題をより総合的、複合的に教育研究活動が進められるよう、総合的な教育研究課題を選択した学生には、学生の所属するコースの教員と他のコース（分野）の教員が共同して研究指導が行えるような共同指導体制をとることとしている。

(専 攻 科 目)	授 業 期 間 等	
【修了要件】 大学院修士課程の修了要件は、大学院に2年以上（長期履修学生にあっては3年以上）在学し、所定の32単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び試験に合格することとする。	1 学年の学期区分	2 学期
	1 学期の授業期間	1 5 週
	1 時限の授業時間	9 0 分
【履修方法】 〔共通科目〕 （教職教養科目） 2 単位以上修得する。 （教職共通科目） 2 単位以上修得する。 〔専攻科目〕 （専門科目） 〈専門分野〉 自己が所属するコースで開設する専門分野の授業科目のうちから、8 単位以上を修得する。 〈教科教育分野〉 自己が所属するコースで開設する教科教育分野の授業科目のうちから、4 単位以上を修得する。 〈総合分野〉 自己が所属する専攻で開設する総合分野の授業科目のうちから、2 単位以上を修得する。 （課題研究） 各自の研究課題に応じ、担当教員の指導のもとに8 単位を修得する。 上記の合計単位数「26 単位」と修了要件の「32 単位」との差の「6 単位」は、共通科目、専門科目、理数系教員養成特別プログラム対象科目、小学校英語活動プログラム対象科目、海外協力教育プログラム対象科目、日本文化理解教育プログラム対象科目及び交流科目のうちから修得するものとする。 なお、この場合の専門科目については、すべての専攻・コースで開設する授業科目のうちから履修することができるものとする。		